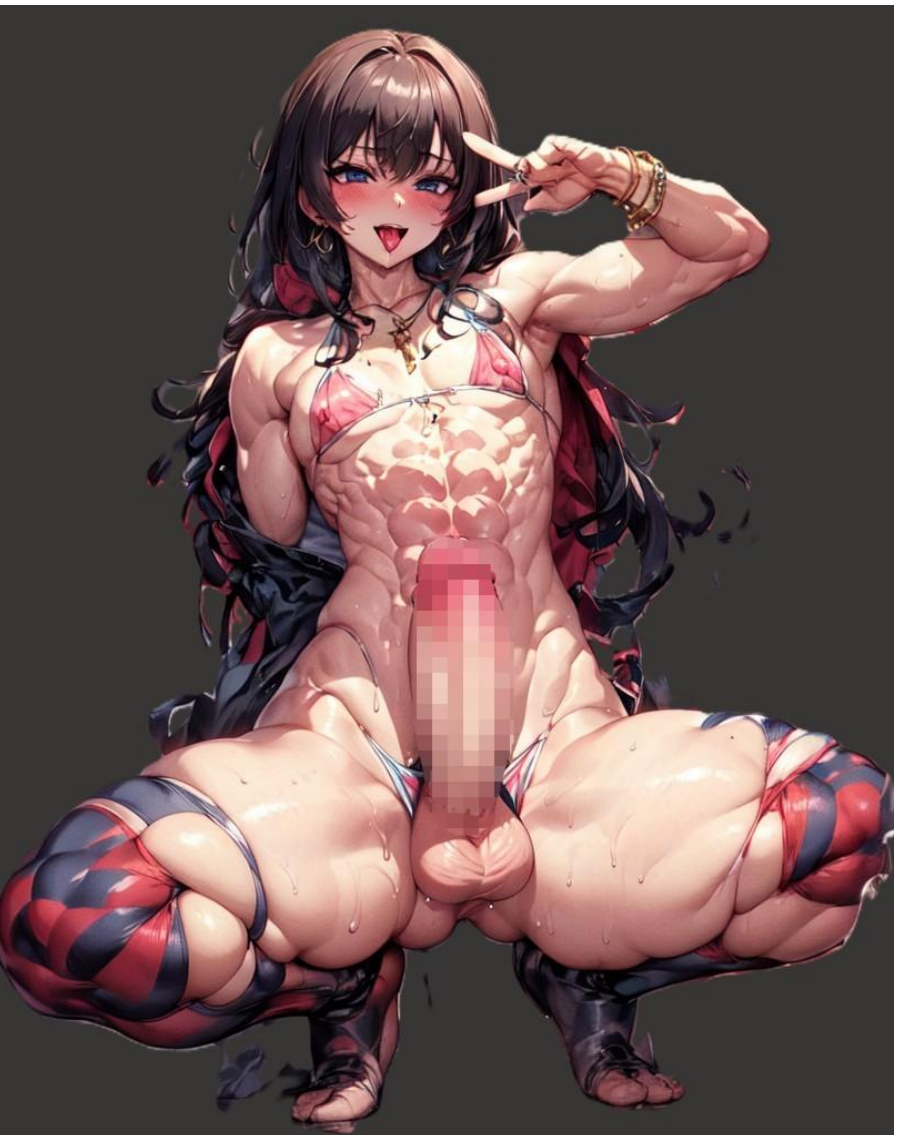


「それじゃあ・・・そろそろ・・・♡いやらしい身体
でご奉仕して貰おうかなあ♡」
湖が見渡せるちよつとした高台まで来ると、ヒマリ
はマイクロビキニから飛び出したデカチンを俺の顔
の前に突き出した。



皮をしっかりと被った包茎チンポだが、血管がゴツ
ゴツと浮き出て、皮を被った状態でもカリが大き
く、およそ子供のモノとは思えない。

「はっああ・・・★・・・ああ★・・・あああ
あ・・・★」俺は感嘆の声を漏らした。

目の前の巨根はドエロい匂いも放っている。

俺は鼻の穴を大きく広げて嗅いでしまう。

「ほら、亀頭の先端を咥えて♥」

「はむう★（で、でけえ★）・・・ちゅぽちゅぽ

★・・・ぢゅううう★」

「そうそう、優しく吸い付いてね♥」

「ちぢゅううう★むちゅうううう★」

必死に包茎デカチンポに吸い付く俺。

「そうそう♥いいよ。ほらあゝ♥舌を皮の中に突っ
込んで舐めまわして♥」

俺は口の中に唾液を溜めると、それを潤滑油にして
皮被り亀頭を舐めまわした。大きな亀頭全体を大口
を開けて咥え、頬をすぼめて締め上げながら、頭を
上下に動かしてシゴく。ついで、皮の中に舌尖を入
れてチロチロと舐め、中に溢れたガマン汁を思い切
り吸った。

「んぽんぽ★レロレロ★くちゆくちゆ★ぢゆるるる
ううう★むちゆぶちゆ★んぽんぽ★」

「おお♥うほお♥・・・ゾクゾクするう♥・・・お
お♥・・・ああ・・・いいよお♥」

ヒマリの包茎チンポはガツチガチに勃起している。
先端の皮被り部分からは透明でヌルヌルのガマン
汁が溢れ出ている。その味が俺の興奮をさらに加速
させる。男の娘のチンポをしゃぶるという変態的な
行為で興奮しまくり、俺の包茎チンポはすでにガツ
チガチにフル勃起していた。そして先端の鈴口から
は、ピュ★ビピュ★とガマン汁が勢いよく吹き出
ていた。

「ぶぶちゆる★ぶちゆるる★レロレロレロ★」
ヒマリの皮の中に舌をより深く突っ込み、ガマン汁
を勢いよく吸い、亀頭を舐め回した。

「ゾクゾクする♥・・・いいよお♥・・・ビクビ
ク・・・♥ゾクゾクするう♥ビクビク♥」

仁王立ちのまま両足をガクつかせるヒマリ。

「んぽんぽんぽんぽ★・・・ぶじゅるるううう★」
俺は一心不乱に亀頭にご奉仕する。

「いいよ♥ダーリン♥そろそろ、剥け♥・・・あ
っ、手は使うなよ♥お口でやってね♥」

ヒマリはそう言うのと勃起した包茎デカチンポを
突き出した。

「あんむうう★」俺は口に包茎デカチンポを咥え
るとゆっくりと口で皮を剥いていく。

「むきゅ♥むきゅ♥」徐々に皮が剥けていく。
それと同時にデッカい亀頭が露わになった。

「むきゅ♥むつきゅ♥・・・ズルう♥ズルう♥」
「おお！おっきい★亀頭・・・デッカ！！」俺は
思わず叫んでしまう。

「あはあ♥剥けた剥けた♥どう？ボクの亀頭、デカ
いでしょ？」
ヌルヌルに輝くデカ亀頭。大きく張り出し、カリの
段差も凄まじい。皮被りデカチンポは一瞬でズル剥
けデカチンポに豹変した。